

サンコー通信 2019.03

バルキングについて(排水生物処理)

バルキングとは？

3月に入り、本格的に春めいて参りました。

季節の変わり目に起こりやすい排水生物処理トラブルがバルキングです。

バルキングとは、生物処理(活性汚泥法)において沈殿槽で汚泥沈降不良が発生し、汚泥と上澄水が上手く分離できなくなる現象です。

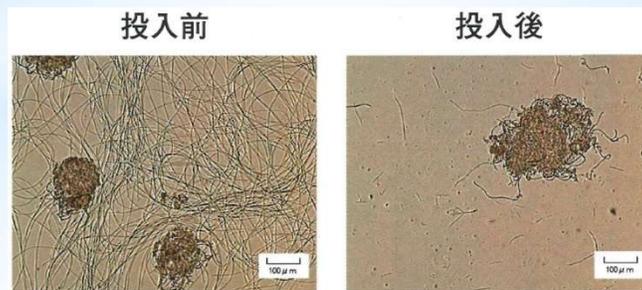
皆さまの排水処理施設は、大丈夫ですか？

バルキングは、なぜ起こる？

バルキングの起こる原因は、

- ①糸状性細菌、放線菌が増殖して汚泥が膨化して沈みにくくなる。
 - ②汚泥の粘性が増加したり、凝集性が低下して微細なフロックとなる。
- などが考えられます。

①を糸状性バルキング、②非糸状性バルキングと呼び、対処方法も変わってきます。



糸状性細菌の大発生

糸状性細菌が寸断されている

※日鉄環境(株)
「生物処理用水処理薬品カタログより」

①糸状性バルキングは糸状性細菌を減らすため、薬剤を添加したり、曝気強度の調整などで糸状性細菌が増えにくい環境を整える必要があります。②非糸状性バルキングも同様に曝気槽のDO(溶存酸素)やORP(酸化還元電位)を確認しながら、BOD負荷量に応じた排水処理施設の運用管理が必要です。サンコー分析センターでは、今までご相談頂いたトラブル解決のノウハウがあります。

是非、お声かけください！

株式会社サンコー分析センター

静岡県浜松市南区下江町604-1

TEL053-426-0731 FAX053-425-0464

URL:<http://www.sankobunseki.co.jp>

E-mail:info@sankobunseki.co.jp